２０２２年度「読書活動の強化」
【 報 告 】

2023 年 3 月

光塩女子学院幼稚園

1.　概 要

司書の配置、既存の図書室の環境整備や絵本の入替え、蔵書の加増、保育中の司書・教諭による絵本の読み聞かせ他、絵本作家による教諭への講習、保護者への講演や園児のワークショップ等を実施。

２．目 的

絵本や絵本の読み聞かせを通して、多くの言葉に触れ、想像し心を動かす経験をすること、人間の感情のひだに触れることにより、幼児期の言語獲得を進める環境を整える事を目的とする。

３．内 容

・司書の配置：週 1 回図書室での司書業務、図書室整備業務、保育中の絵本読み聞かせ等
・既存の図書室の環境整備：子どもたち自身で絵本を選びやすい様に配置換えや展示方法の工夫
・既存絵本、図鑑の入替え：劣化が激しい本、情報が古くなった図鑑の買い替え
・新しい本の購入：司書の視点で既存の図書室に不足している絵本を購入（蔵書数 2,000 冊）
・ブックカバー：コロナ禍でも貸出可能にするため、購入した全ての絵本にブックカバーをかける
・絵本読み聞かせ：保育の中で、司書・教諭による絵本の読み聞かせの機会を増やす
・教諭への講習会：絵本作家スギヤマカナヨ氏による教諭のための講習会
　「読むだけじゃない！丸ごと絵本の活用、楽しみ方～創作秘話、子育て、ワークショップまで～」
・保護者講演会：同氏による保護者への講演会
　「絵本と子育て、読むだけじゃない！絵本の可能性と楽しみ方！」
・園児へのワークショップ：同氏によるワークショップ「ぼくだけ、わたしだけのこと」
・司書による絵本紹介：毎月、数冊の絵本紹介「こんぺいとう」（図書だより）配信

４．取組開始時期

令和 4 年 7 月～

５．司書の配置

非常勤職員　村岡　純子

6. 成果

保護者アンケートでは、「図書室の環境整備や子どもたちへの読書活動（読み聞かせ等）が充実してきたように感じるようになりましたか」という設問に対し、4 点満点中平均 3.59 点という結果になった。子どもが本に興味を持つようになったという意見がある一方、まだまだ準備段階で、これからの活動に期待するという旨の意見もみられた。また、保護者講演会やワークショップの実施時期が保護者アンケートの後だった事で、結果が反映されなかった部分もあると考えられる。

保護者講演会は 52 名が参加し、貴重な経験を得た、また開催して欲しい等高い評価を得る事が出来た。

今後の課題としては、活動の様子がより保護者へ伝わるよう、発信方法のさらなる強化に努めたい。

7. 活動の様子

●図書館司書による絵本読み聞かせ

●教諭による絵本読み聞かせ

●絵本作家スギヤマカナヨ氏による職員研修

●既存図書室の整備

●年長組ワークショップ「ぼくだけ、わたしだけのこと」（卒園前のワークショップとして実施）

スギヤマカナヨ氏の絵本「ぼくだけのこと」を読み聞かせ、その後、子どもたちに「みんなにもいろんなぼくだけ、わたしだけのことがあると思う。どんなことがあるか、シートに書いてみよう！」と語りかけた。このワークのキーワードは「かけがえのない存在」。自分はかけがえのない存在、だれも自分の代わりはなりえない大事な存在なのだと知ることにある。そしてそれは自分だけでなくだれもが「かけがえのない存在」であることに気づくことにもある。

ワークショップ後、園児は「『かけがえのない』ということがすごくわかった！」と感想をもらした。

●保護者講演会

絵本作家スギヤマカナヨ氏

「絵本と子育て、読むだけじゃない！絵本の可能性と楽しみ方！」

参加者：52 名

【講演後の参加者感想抜粋】

・絵本によって会話が広がり色々な知識につながっていくことを教えていただきました。ただ本を読んで終わるのではなく、その先に無限の可能性があるのだと感激しました。

・絵本「おかあさん、すごい」や「あかちゃんはおかあさんとこうしておはなししています」を聞かせていただき、日々の慌ただしい生活の中でも忘れてはいけない、お母さんにしてくれた感謝の心に改めて気づくことができました。責任感ばかりがのしかかっていたように思い、母親として娘たちとの関わり方を見直す機会をいただいたと思っています。

・絵本の世界には好奇心が溢れていて、その中で自身の好きなことや、やりたいことを発見し、「好き力」が生まれる素敵な場所であることに、感慨深い気持ちになりました。

・「そだててみたら…」を読み聞かせ頂いた時、感動し心が揺さぶられ涙が出ました。何においても育てるという事は心から見守る事が大事だという事を改めて認識しました。

・絵本の読み聞かせは、本に触れるという意味だけではなく『絵本を読んで親と子が一緒に過ごす時間』というスギヤマカナヨさんのお言葉が心に残りました。

ようこそ　スギヤマカナヨさん！　2023. 01. 11 講演会

テーマ　『 絵本と子育て
読むだけじゃない！絵本の可能性と楽しみ方！ 』

【スギヤマカナヨさんをご紹介します】

1967 年静岡県三島市生まれ。東京学芸大学教育学部
美術教育学科卒業後、ステーショナリーの会社へデザイナーとして就職。
1990 年よりフリーランスとなり The Art Students League of New York
でエッチングを学ぶ。大学の卒業制作『ノーダ』にっチ賞 K・スギヤーマ博士の
動物図鑑』で絵本作家デビュー。
『ペンギンの本』で講談社出版文化賞絵本賞、『森のどうぶつみき』でゲット・
トイ 2013 選出、林野庁長官賞を受賞。『ゾウの本』は厚生省中央児童
福祉審議会特別推薦文化財に選定された。

絵本、児童読み物、翻訳、挿絵、一般書のコラムエッセイ、装丁など。
出版物の仕事に加え、絵や工作などを子どもたちと楽しむ各種ワークショップ、さまざまな特性をもった人たちと
アートを通じてつながりあうイベント、動物保護関連にまつわる取り組みなど、その活動の幅と対象は、限りなく
深い。（『スギヤマカナヨ デビュー30 周年記念絵チより』抜粋）

【作業　森　絵都さんがスギヤマカナヨさんと組んだ本】

デビュー作『リズム』（装丁）『ゴールド・フィッシュ 続・リズム』『ぼくだけのこと』『ポタン』
『君と一緒に生きよう』『あいで、一緒に行こう』

【スギヤマさんのエピソード・・・幼稚園・小学校・中学校で講演をしていらっしゃいます】

（中学校の例）『プロとの出会い』を学校経営の柱の一つにしている中学校では、スギヤマカナヨさんと
家庭科の教員との協働授業「絵本創作」を実現しました。これは、中学校家庭科の授業「幼児の生活」の
学習内容の一環です。
プロの絵本作家との出会いは、強烈な感動を生徒達に残しました。絵本創作の過程では、カナヨさんからの
助言が直接いただけるのです。まさに「ほんもの」との出会いです。
「絵本作家さんが、自分の作品をほめてくれた。なんだか自信がついてきた。これは一生の宝物！」。
このような生徒の声が、アチコチから聞こえてきました。
カナヨさんの、子どもの力を信じる姿、まっすぐに生徒と向き合い、思いを引き出し実現させる手腕には、
「かなわないなぁ」と、教職員はいつも感服していました。

●幼稚園ホームページで情報発信

https://www.koenyouchien.ed.jp/about/library.html

光塩幼稚園では、園内に図書室があり、約2,000冊の絵本・図鑑などを蔵書しています。
幼児期の子ども達にとって、絵本・本との出会いはたくさんの幸せをもたらします。
人は「言葉」で考え「言葉」で伝えます。人としてよりよく生きるためには、「言葉」を豊かにすることは必須です。
幼児期は「言葉」を育むことにおいて重要な時期です。この時期により多くの言葉に触れ、想像し心を動かす経験をすること、人間の感情のひだに触れることによって「語彙」を増やし、他者との言葉を交わす喜びを体験することによって自分とは違う世界があることを知り、言葉を使って伝えることの意味に気づき、これらの繰り返しによって豊かな言語を獲得していきます。
こういった言語獲得は一人で行うことはできません。友だちなどの同世代、親・先生など周りの大人たちとの交流の中で生まれていきます。
加えて、行動範囲・経験する機会に制約のある幼児にとっては、絵本や物語の力を借りることは大いに意味があります。見たことのないものや、思いもよらない世界を絵本や物語の世界で見ることができるというのがその一つですが、特に「自分の身近な大人の声によって届けてもらう」ということに意味が大きいと考えます。読んでくれた人、語ってくれた人の声とともにその絵本世界や物語が記憶され、一人では抱えきれない緊張を伴う物語も、自分が大好きな人の声の力で乗り越えられるのです。
これらの言語獲得を進める環境を幼稚園の中に作るためには、図書室は大きな役割を果たします。

2022年9月から、図書室に司書の村岡純子（むらおかすみこ）さんに勤務していただいています。
村岡さんは、週に1日（主に木曜日）に勤務していただいております。
図書室の運営・アドバイスの他、読み聞かせ、お話会などもしていただきます。
保護者の皆さまも、絵本のことなどお気軽にご相談ください。

<図書室司書・村岡すみこさんのメッセージ>
このたびご縁がありまして、図書室のお手伝いをさせていただきます。
「本と子どもをつなぐ」ことが生きがいです。
子どもたちの幸せな幼稚園時代のために、微力ながら尽くします。
よろしくお願いします。

８．令和５年度の計画・・・新図書室「えほんの森」

・新図書室の整備：現在の保育室を図書室に改修
　　シンボルツリーの設置
　　書架購入

・新図書室の開放：現在年長のみが利用している図書室を全学年や保護者にも開放していく

・保護者向け講演会・職員研修：引続き定期的に専門家による講演会や研修をする

９．学校関係者評価

・図書室が生まれ変わり、司書の先生の配置と普段担任の先生がしているのとは違う形での絵本読み聞かせ、絵本作家さんによる取組み等によって、子どもたちが更に本に興味を持つようになったと感じた。

・読書活動を強化するという取組みに感銘を受けた。図書室の充実は、子どもたちが広い世界に出会う大切な場の提供である。与えられるのではなく、自分で選び取っていくという経験のためにも、みんなで活動する時だけではなく、園児が自分で本を手に取ってみたり、好きなものを選んだりすることが出来る環境が整えられると良いと思う。

・取組みを始めてから１年弱で、達成出来た部分が期待するほど多くなかった様に思うが、今後も継続して取組みを進め、保護者にも伝わるように適宜発信していく事も必要だと感じた。

・次年度に予定している新図書室「えほんの森」では、子どもたちが自由に楽しむことが出来るような運営を確立していって欲しい。